

第2回ワークショップを開催しました。

- 日時 令和5年2月22日(水) 18:30~20:30
- 会場 国際交流会館 4階 第3会議室
- 参加者 16名
- ワーク
 - 前回のふりかえり
 - 景観をより良くするための考え方
 - 熊本市の景観をより良くするためのアイデアを考えよう

前回のふりかえり▶
「熊本市の景観の現在を知ろう」



景観をより良くするための考え方

景観の感じ方は人それぞれですが、良い景観には「きれい」「地域の個性が感じられる」「居心地が良い」「安心感がある」など多くの人の共感を得る共通点があります。

良い景観をより良くするために、以下の5つの考え方と景観形成の主体について整理しました。



グループワーク講評 (グループワークの詳細は別紙参照)

今日のワークショップでは、景観をもっと分かりたい、子どもたちに伝えたい、という話が良く出ていた。また、他の区がどう思っているのか調べるために情報を発信したり、ツールを使ってシミュレーションをしたりする話も出た。

新しい技術を活用すること自体、ワクワクさせるし、いろんなことが動き出すきっかけにもなる。そういう風な景観づくりも楽しい。



▲原田和典先生
(崇城大学)



▲田中智之先生
(熊本大学)

A班 イベントや情報発信など別々に考えそうなことを重ねていく、結果的に楽しみながら知って、長期的に見て景観が良くなるメカニズムの可能性を感じた。

B班 歩行者天国や、歩道を広くすること、建物のルールを見直すなど、まちをもっと自由にしていくことが、人々とまちとの接点を増やすことにつながり良い循環になる。「自由に」が大事なことだと思った。

C班 夜にゴミ収集すれば、朝の景観が良くなり、カラスもいなくなるし、まちも美しくなっていく。一石二鳥の考え方が面白いと思った。

ワークショップと言いながら、行政に対する要望を並べることが多いが、今回参加のみなさんは、自分たちで何ができるか、身近なところで何からスタートできるか、仲間をどう増やしていくかという視点でのご提案が多く、そして印象に残った。

景観計画には、いろんなルールをどう運営していくか、また、もっと良くしていくにはどうしたら良いのかといった市民協働の内容を記載することになる。今日出していたアイデアはそれを充実させるものが多く、嬉しく感じた。



▲星野裕司先生
(熊本大学)

グループワーク

「景観をより良くするための考え方」を踏まえながら、維持・保全・改善のためのアイデアを考えました。
また、出されたアイデアについて、主に誰が（市民、事業者、行政など）担うとよいか、協働のあり方を含めて話し合いました。

A

▼Aグループ
話し合い風景



◀発表風景



発表風景▶



発表風景▶



Bグループ▼
話し合い風景



C

▼Cグループ
話し合い風景



◀発表風景



発表風景▶



